



勝手に！

発表！2017年度 狛江市予算10大ニュース！

予算特別委員会を振り返ろう

狛江で分かりやすい政治を伝える会・責任編集（＝独断です）

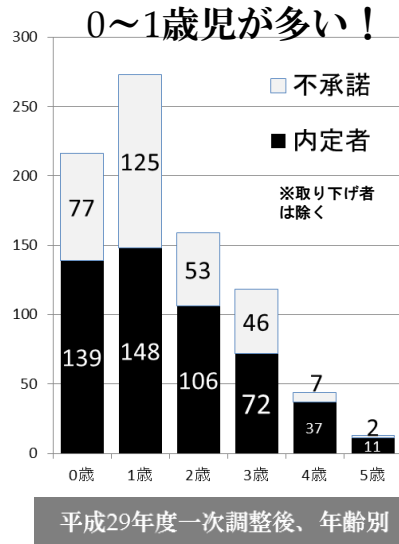
3月議会で平成29年度狛江市全6会計の予算審議が行われました。改めて市民の皆様からお預かりした税金がどう使われていくのかをご説明します。ランキングの選択基準は「現役世代のご家族にもっと市政に関心を持っていただきたい」という思いを込めましてアトランダムに選んでいます。



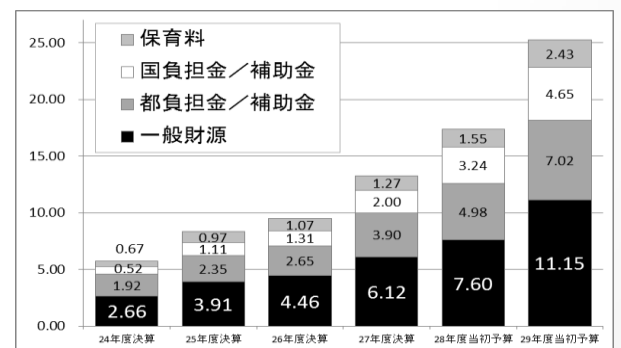
小池さんが東京都補助金を増やしてくれたけれど、今後は都も大盤振る舞いできなくなるかも!?

第1位 保育児対策費増も、市の苦しい懐事情

保育需要の急増により平成29年度予算でも前年度に引き続き待機児対策費用の増加が見られます。直近の状況ですが、2月の市内認可保育園の一次利用調整結果として、申し込み人数832名、その内訳は入所内定513名、不承諾者（入所保留）310名、取り下げ者9名という状況です。前年同時期と比較しますと内定者141名増、不承諾者55名減となりますので、待機児問題は改善しているものの、依然としてご不便をおかけしている子育て世帯が市内には大勢いらっしゃるということになります。市としては保育園の待機児解消に向けて4月に保育施設を5施設開園し、保育定数255名拡大するとともに、翌年度に向けた保育施設整備も予定されています。



一方、年々増加している保育所運営コストですが、一般財源の占める割合が新年度予算では44%にまで増加しています。すなわち市が自由に使えるお金が少なくなるということ。小池都政からの補助金は増えましたが、平成30年度「東京都への国民健康保険会計移行」を見据えると、東京都の財政が苦しくなることが予想されますので予断を許しません。



第2位 財政健全化を実現するために、ここ数年減らしてきた狛江市の借金。しかし、新年度では、国の財源不足から「臨時財政対策債」に関して増やすハメに！

高橋市政になって以降、市の借金に関して元金償還額以上は借入しない等の徹底により一般会計ベースで200億円を切る水準まで近づいてきました。しかしながら国の税収予算割れ（平成27年度決算）等による影響で、交付税特別会計における前年度からの繰越金が平成29年度はゼロとなり、財源不足が大きくなった関係で地方交付税が減額となりました。振替のあてとなるのが臨時財政対策債ですが、これが増え始めますと、公共施設整備等の財源を確保することも難しくなってきます。



第3位 歳出の半分を占める「民生費」の中で子育て費用の占める構成比も増加。

一般会計267億円当初予算歳出で一番使われるのが福祉のお金、いわゆる民生費の135億円。更に民生費の中での構成比では「子育て費用」が最も多く44.5%。前年からも増加。

	子育て	生活保護	高齢者	障がい者	その他
H28年度	41.9	15.7	17.6	11.6	13.2
H29年度	44.5	16.3	15.1	12.4	11.7



管理職手当アップ条例が定例会で議決。新年度予算に反映も、管理職になりたくない職員が大勢いるってホント？

狛江市の管理職（課長補佐以上）は、条例可決により年間で10万円前後手当がアップすることになり、その影響額は460万円。市民感情からすると「もらいすぎ！」というご意見もあるとは存じます。私は予算特別委員会の討論（議員としての賛否表明）でも申し上げましたが、管理職としての責任を果たしていただければいいのだと思います。それだけの責任を果たしてこそそのギャランティ、逆を申し上げますと職責を果たしていない管理職は即刻退場ということです。問題は、若い職員さんで「管理職になりたい」と思う人が少ない事。民間で人事制度改革時期の労使交渉をしてきた経験で申し上げますと、ラインに乗って上へあがりたと思う人が全体の2割程度であると、組織としては危険水域です。働き方や価値観は人それぞれですが、もしかしたらエラくなると議会対策で「議員」の相手しなくてははいけないので、それがイヤなだけなのかも？



狛江駅北口の「三角広場」が平成29年度末に整備着工

狛江駅北口交番のお隣り、保育園児の皆さんののんびり憩う場所はどうですか？あ、「三角広場」の整備費がついに予算化されることになりました。オープンは平成30年4月以降予定ということで平成29年度末（平成30年3月頃）には整備完了される見込みです。イメージとしては広場内の周囲が舗装され、その中央部が「人工芝」で覆われる予定です。人工芝という素材に関しては賛否両論あると思いますが、透水性、車両搬出入や価格面等を勘案されて決定されたということです。今後、告知・利活用に関するNEWSが発表されると思いますが、いろいろな意味で狛江をザワザワさせてくれるかもしれません。シンボルとなるような人が集う場所になってくれることを願います。



市の魅力アップへ切り札。農業振興計画策定で期待されることは市民からのアイデアかも

多摩川や野川に囲まれた狛江は緑が多いと思われている方も多いのではないのでしょうか。ところがどっこい、実は緑地（＝公園や広場といったオープンスペース）は極端に少ないのです。そんな中で市内に点在する「生産緑地」は市民の皆様にとっても深呼吸できる貴重なスペースです。国も都市農業振興基本法を策定し「都市農業の担い手の確保」「用地確保」「振興施策の本格展開」を方向性に掲げています。そうなりますと、これからの農業は地域活性化の起爆剤になる可能性が十分に出てまいります。アイデアが勝負という意味では、多摩の他市はみんなライバル。「トカイナカ（＝都会に居ながら田舎気分満喫）」な狛江ならではのライフスタイルを実現し、それを魅力に感じていただく施策も必要になります。将来的には、生産緑地で農家レストランやジャムの販売所なんかが出来ると“人生の楽園”みたいにするべく楽しい街になると思います。



視覚障がい者の方々に朗報！点字ブロック改修

私は市内でガイドヘルパー（視覚障がい者の為の同行援護従業者）をしています。「駅周辺の擦り減ったブロックを何とかして！」と嘆いておりました。ようやくJIS規格準拠の仕様へ改修されます。



★観光大使「近藤春菜さん」も初めて予算化

契約料ゼロが当たり前の地方自治体観光大使。タレントさんにとっても「故郷に錦を飾る」的な側面が強いのですが、売れっ子・春菜さんに謝礼として20万円が予算化。もっと来てね！



2019W杯が間近に迫り、ラグビーのラの字もない？

五輪やサッカーW杯と並ぶ世界三大スポーツの祭典、2019ラグビーW杯。2年後にはお隣の調布市で開幕戦が決定！にも関わらず、新年度予算はゼロ！小さなお子さんは学校のタグラグビーで盛り上げてね！



「医療と介護の連携推進小委員会」の皆様、申し訳ありませんでした。医療と介護の連携MAPが予算化されなかっただけでは済まされないかも？地域福祉計画策定は果たして大丈夫か？

福祉の最上位計画「地域福祉計画」は平成30年度スタートということで、新年度中に作業を完了する予定です。狛江市の医療従事者や介護事業者等の関係者が策定にあたっての指南役を引き受けてくださっていますが、彼らが一堂に会する委員会（医療と介護の連携推進小委員会）で、せっかく議論を重ねてきた事業が事前に何の説明もなく、予算化されない事態に。市からは誠心誠意、経緯と今後の見通しを説明していただくことで、「余人をもって代えがたい方々」に今後も気持ち良く仕事していただくことを願います。

【広告】



愛妻納税墓参り

家族から見た三宅久之の回想録
イラスト・プレス社刊
三宅 眞

価格：1600円＋税
狛江市の書店でご注文下さい

狛江市議会議員 三宅まこと

1964年 東京都生まれ、立教大学経済学部卒業。
1987年 広告代理店・東急エージェンシーに27年間勤務。12年5月、120名社員プロジェクトをリーダーとして運営中に、妻が病気を発症し妻の要介護認定に伴い、介護休職後に退社。同時に自身が社会保障の重要性に目覚め、介護初任者研修、介護事務。実務者研修修了、同行援護従業者資格取得。
2014年 狛江市議会議員選挙にて、無所属新人ながら1871票の得票により全体の2位で当選。
2015年

こまえをつなげる…現役世代の方に少しでも狛江のコトを知っていただきたいという思いで作成しました。如何でしたでしょうか？ぜひフェイスブックやメールでのご感想をお待ちしております！

facebook

三宅まこと

公式HP <http://三宅まこと.com>

info@miyakemakoto.jp

